

森 貞

(福井工業高等専門学校)

## 要旨

本稿の目的は、「なぜ」を含む多重疑問詞疑問に関する以下の3つの問いに認知言語学的観点から解答を与えることである。[1]「なぜ」の最左方表出の阻止要因とは何か？[2]「どんな理由で」・「どのような理由で」の最左方表出の容認要因とは何か？[3]「なぜ」の最左方表出容認の促進要因とは何か？先行研究では、ペアリスト解釈ができるかどうかの観点から[1][2]の問いに答えているが、言語感覚調査の結果を元に、その不備が指摘され、「なぜ」に『既定の事態のみを修飾するという意味的制約』が課されていることが、最左方表出（厳密には、他の疑問詞に先んじた表出）を阻止し、他方、「どんな理由で」・「どのような理由で」には、そのような意味的制約が課されていないことが、最左方表出（厳密には、他の疑問詞に先んじた表出）を可能にしていることを代案として提出する。[3]の問いに関しては、2つの可能性（①意味的近似を橋渡しとして、「なぜ」を「どんな理由で」・「どのような理由で」のように捉えるような意識の発動、②変項〔疑問詞〕の解の探求における相対的欲求度の順序の言語的反映）が提案される。

## 1. はじめに

以下の多重疑問詞疑問文では、優位性効果（疑問詞の表出順序への制約）は示されない。

- (1) a. 誰が 何を 買いましたか。 b. 何を 誰が 買いましたか。 (村田 (2006: 7))
- (2) a. 誰が 何を 買ったの？ b. 何を 誰が 買ったの？ (吉田 (2015:113))
- 他方、「なぜ」が用いられた場合、(複数疑問詞の中で) 最左方表出は容認されないとされている。
- (3) As shown in (39a), in Japanese, a base-generated configuration results in ungrammaticality where an adjunct *wh*-phrase like *naze* precedes a *wh*-object. This effect disappears when a higher *wh*-phrase is added either by scrambling into a position preceding the *wh*-adjunct as in (39b), or by base generation as in (39c) where a third *wh*-phrase is added (Watanabe 1991, Saito 1994a):
- (39) a.\* John-ga naze nani-o katta no?  
           J.<sub>nom</sub> why what<sub>acc</sub> bought Q  
       b. Nani-o John-ga naze t katta no?  
           what<sub>acc</sub> J. <sub>nom</sub> why bought Q  
       c. Dare-ga naze nani-o katta no?  
           who <sub>nom</sub> why what<sub>acc</sub> bought Q (Sabel (2001: 24))
- (4) a. 太郎が何をなぜ買ったの。 b. \*太郎がなぜ何を買ったの。 (村田 (2006: 7))
- (5) a. Kimi-wa nani -o naze katta no?  
       b. \*Kimi-wa naze nani-o katta no? (Takita et al. (2007: 108-109))
- (6) a. \*なぜ誰が何を買ったの。  
       b. \*なぜ何を誰が買ったの。  
       c. 何をなぜ誰が買ったの。

d. 何を誰がなぜ買ったの。 (村田 (2006: 8))

その一方で、「なぜ」の同意表現とされる「どのような理由で」・「どういう理由で」の場合は、最左方の表出が容認可能となる。

(7) a. どのような理由で誰がチョムスキーの本を買いましたか。

b. 研究のためにジョンが、著者のファンだからトムが、予算消化のためにメアリが買いました。

(池田 (2014: 91))

(8) 「誰が どういう理由で そこへ行ったの？」も「どういう理由で 誰が そこへ行ったの？」も両方とも問題ない文だ。 (<http://takutsubu.dreamlog.jp/archives/1350856.html>)

また、(9)に示すように、「なぜ」の最左方表出の実例があることも興味深い。

(9) 「問題は、白夜が、なぜ、だれに監禁されていたのか？それに、勇気さんがどうからんでいたのか？」

(ドラマ『ドクターホワイト-#6 生死を分ける謎の腹痛…チーム最大の試練！』2022/02/21 放送)

したがって、本稿の目的は、以下の3つの問いに答えることである。

[1] 「なぜ」の最左方表出の阻止要因とは何か？

[2] 「どんな理由で」・「どのような理由で」の最左方表出の容認要因とは何か？

[3] 「なぜ」の最左方表出容認の促進要因とは何か？

## 2. 先行研究

本節では、先行研究を概観する。先行研究におけるキーワードは【ペアリスト解釈】である。

### 2.1 「なぜ」の最左方表出の阻止要因

(10) 「なぜ誰が」が容認されないのは「なぜ」が「誰」の変項を含む開放文を作用域にとるからである。どんな理由かを聞いた後に「その理由で x が...」の x を決めるので語用論的に推論しにくいのである：

(86) a. なぜ誰が？ => なぜ [ CAUSE(Predicate1 (x) , 誰(x) Predicate2 (x) ) ] ?

↑ x が束縛されない

c. 誰がなぜ？ => 誰(x) [なぜ [ CAUSE(Predicate1 (x) , Predicate2 (x) ) ] ] ?

↑ 束縛

「誰がなぜ」では「誰」の値を決めて「なぜ」と理由を問うので適格になる：

(87) a. だれがなぜパーティーを欠席したの？

b. 太郎[x]が病気だから、(太郎[x]が) パーティーを欠席したのだよ。

c. 太郎[x]は病気だから、(太郎[x]が) パーティーを欠席し、次郎[y]は金がなかったから、(次郎[y]が) パーティーを欠席したんだ。

Kuno and Takami 1993 は「左端の WH 句が多重 WH の解釈の Sorting Key になる」と仮定し、個体と関わる「誰」は疑問の Sorting Key になるが、複合命題の「なぜ」は Sorting Key になりにくいと主張する。本稿の考察はこの分析に近いが、上述の議論から日本語の多重 WH は統語的にも意味的にも英語のそれとは異なると仮定し、日本語の多重 WH は英語との類推では分析できないと考える。「なぜ」文が語用論的に「誰」の変項を含むことで、(87c)のようなペアリスト解釈が誘発される。しかしこれは統語的に「なぜ」自体が N 素性をもつからでも束縛代名詞をもつからでもなく、語用論レベルで文が分解され、「なぜ」文の中に変項が仮定されるからである。

(吉田 (2000: 31-32))

- (11)・本論文での主張は、ペアリスト解釈は複数メンバーを表す **Subject** と **Predicate** の構成要素によってもたらされるというものである。(p.84)
- ・ (39) B: 誰がなぜあの本を買いましたか? (ok ペアリスト解釈) (p.85)
  - ・ (42) B: なぜ誰が本を買いましたか? (\*ペアリスト解釈) (p.87)
  - ・ p 型の言語表現である「なぜ」が **Subject** となることはできない。そのため、「なぜ」を **Subject** として叙述関係を作ることもできないため、(42B)ではどうしてもペアリスト解釈を行うことができない。(p. 88)
  - ・ (47) B: 誰がなぜ何を買いましたか? (ok ペアリスト解釈) (p.88)
  - ・ (50) B: なぜ誰が何を買いましたか? (\*ペアリスト解釈) (p.89)

(池田 (2014))

- (12) 村田 (2011 : 169) は多重 WH 疑問文のペアリスト解釈を次の指示関数によって表す。

(38) 指示関数  $y=優位(x)$

(39) 関数  $y=f(x)$ の特徴

- a. 異なる  $x$  に対して  $y$  が同じであってもよい。
- b. 同じ  $x$  に対して異なる  $y$  は許されない。

$x$  は基準で優位にある WH である。それは英語の顕在的移動がある WH に対応し、日本語では前にある WH に対応する。 $y$  は優位にある基準の  $x$  に対する答の集合である。上述の先行研究を見て分かるように、「なぜ」を含む多重 WH 疑問文では、項の疑問詞（「誰が」「何を」）の方が一つでも先行しなくてはならない。上の指示関数によって解釈すれば、「なぜ」は基準にならず、基準に対応する結果のみを表すことができる。【中略】まとめると、日本語多重 WH 疑問文において、前にある疑問詞は広いスコープで解釈され、指示関数による優位基準を示す。後ろにある疑問詞は狭いスコープで解釈され、指示関数による結果の集合を表す。「なぜ」を含む多重 WH 疑問文では、意味論的に「なぜ」は開放文を作用域に取れないので、「なぜ」の前に、通常の WH 句が来なければならない。(杜・吉田(2017: 70-71))

#### 4.2 「どんな理由で」・「どのような理由で」の最左方表出の容認要因

- (13) 「なぜ」がほかの不定語の先行している場合には多重 wh 疑問文において、ペアリスト解釈が不可能となることは上記で述べたとおりである。ところが、次のように「なぜ」の代わりに「どんな理由で」を用いるとペアリスト解釈が可能になる。

(53) (=8) a. どのような理由で誰がチョムスキーの本を買いましたか。

b. 研究のためにジョンが、著者のファンだからトムが、予算消化のためにメアリが買いました。本論文での分析は、叙述関係の **Subject** であれば、**Predicate** に対して分配されることが可能というものである。そして o 型言語表現であれば、**Subject** になることができる。「どのような理由」は、「なぜ」と異なり、何らかの理由そのものをあらわす表現である。つまり「どのような理由」も o 型表現であり、**Subject** になることが可能である。そして **Subject** になることさえできれば、**Predicate** に対して分配が可能となり、その結果、ペアリスト解釈が可能となる。今後、さらに考察は必要であるものの、「どのような理由」や「どのような手段」という表現は、このようにして説明可能になると考えたい。(池田 (2014: 91))

### 3. 言語感覚調査

本節では、言語感覚調査（Forms 利用、145 人[17 歳～19 歳]、回答期間：2022/03/09～2022/03/16）の結果を示す。

(14)を見ると、a, b（先行研究では、前者は容認不可の文、後者はペアリスト解釈が OK である容認可能な文）を OK とする被験者の割合が 30%前後であるのに対して、c のそれは 70%を超えている。

- (14) a. なぜ、誰が、誰を怒らせたの？ 【OK: 49 [34%] ? : 57 [39%] \* : 39 [27%]】  
b. 誰が、なぜ、誰を怒らせたの？ 【OK: 40 [28%] ? : 64 [44%] \* : 41 [28%]】  
c. 誰が、誰を、なぜ怒らせたの？ 【OK: 105 [72%] ? : 26 [18%] \* : 14 [10%]】

(15)-(17)は、個人内判断のクロス集計の結果であり、ここでも、a と b では、容認度の偏りが少ないのに対して、a と c、b と c では、いずれの場合も、c をより容認する傾向(c の方が容認度が高い)が見られる。

- (15) [a = b] : 70 [48%](={○○}:22+{? ?}:31+{\* \*}:17)  
[a > b] : 42 [29%](={○ ?}:18+{○ \*}:09+{? \*}:15)  
[a < b] : 33 [23%](={? ○}:11+{\* ○}:07+{\* ?}:15)  
(16) [a = c] : 44[30%](={○○}:32+{? ?}:07+{\* \*}:05)  
[a > c] : 22[15%](={○ ?}:13+{○ \*}:04+{? \*}:05)  
[a < c] : 79[55%](={? ○}:47+{\* ○}:27+{\* ?}:05)  
(17) [b = c] : 44[30%](={○○}:28+{? ?}:10+{\* \*}:06)  
[b > c] : 29[20%](={○ ?}:19+{○ \*}:07+{? \*}:03)  
[b < c] : 72[50%](={? ○}:43+{\* ○}:25+{\* ?}:04)

### 4. 実例提示

本節では、「なぜ」が最左方に出現している実例を列挙する。

#### 4.1 科学研究費助成事業データベース

- (18) 「なぜ、誰が、どのように、親権を行使するのか」。「なぜ、どのような場合に、どのように、親権の行使が制約を受け、または剥奪されるのか」

(科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書 2012)

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-21730072/21730072seika.pdf>

- (19) そのため、2010 年までには、いったいなぜ、誰によって、1935 年の日本にペンクラブが設立されたのかは、誰にとっても、理解できなくなっていた。

(科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書 2012)

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-22320043/22320043seika.pdf>

- (20) ここでは、オーソドックスな町並み保存の考え方・手法は通用せず、「なぜ、何を、どのように保存するか」という基本テーマが絶えず 問い返される。(科学研究費補助金研究成果報告書 2009)

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-19404015/19404015seika.pdf>

- (21) 約 5 万年前以降、アデリーペンギンが南極・昭和基地周辺の様々な環境の空間的・質的变化に対して、どのような必然性でルッカリーの場所を選択してきたのか(アデリーペンギンは、なぜ、いつから、その場所を選んだのか)について分析・考察することを二つ目の目的とした。

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-17K18535/17K18535seika.pdf>

#### 4.2 国会会議録検索システム

(22) そもそも、なぜ、誰のために改ざんが行われたのか、真相究明のために、関係者の国会招致の実現など、国民の声に応じて参議院の役割を果たそうではありませんか。

(第 207 回国会 参議院 本会議 第 5 号 令和 3 年 12 月 21 日)

(23) 質問の第一は、気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について、社会資本整備審議会答申、昨年の七月ですが、提唱した、「流域治水」への転換」という言葉を使っておりますが、大臣に、転換という認識はあるのか、もしそうなら、なぜ、何を転換するのか、伺います。

(第 204 回国会 衆議院 国土交通委員会 第 10 号 令和 3 年 4 月 7 日)

(24) なぜ誰から招待されているのかということもぜひ調査を進めていただきたいというふうに思っているのですが、この件についてお答えいただければと思います。

(第 200 回国会 衆議院 環境委員会 第 3 号 令和元年 12 月 3 日)

(25) 御指摘の文書については、財務省において作成、公開されたものであり、なぜ誰がこのような書換えを行ったということについては、引き続き財務省において調査が行われている段階でございますので、国土交通省から何らかの評価を申し上げられる状況にはないと思っております。

(第 196 回国会 参議院 予算委員会 第 12 号 平成 30 年 3 月 20 日)

#### 4.3 ドメイン(ac.jp)

(26) けれども歌の意は必ずしも明らかではない。君とは誰か、どうして笠は落ちるのか、なぜ誰が一晩中それを探すのか。

<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/13500/KJ00005096227.pdf>

(27) なぜ、誰が宇宙へ行くのか

<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/~isobe/etc/kbu10/file/KBU-20110129b.pptx.pdf>

(28) 諸研究においてもっとも重要なトピックは、「なぜ、誰が遺棄をするのか」「なぜ、誰が保護をするのか」であろう。

[https://kwansei.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_action\\_common\\_download&item\\_id=17054&item\\_no=1&attribute\\_id=17&file\\_no=1](https://kwansei.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=17054&item_no=1&attribute_id=17&file_no=1)

(29) 州都ノーリッチ市は、中山の最も多い時には司教座聖堂と教区教会が 60、ホスピタル、カレッジを含む各種修道院が 30 以上も建てられた。ノーリッチ市を含むノーフォーク全体では、969 の教区教会 と 659 の各種修道院が建てられた。これまでに 245 が廃墟と化したが大半は残存し、ヨーロッパの中でも教会の多い所として有名である。なぜ、誰がどのようにしてこれ程の数の教会建造物を建てたのか？

[https://niigata-u.repo.nii.ac.jp/record/5245/files/09\\_0006\\_TA.pdf](https://niigata-u.repo.nii.ac.jp/record/5245/files/09_0006_TA.pdf)

#### 5. 代案提出

3 節で示した言語感覚調査の結果を勘案すると、「なぜ」を含む多重疑問詞疑問文において、(特に疑問詞が 3 つ以上ある場合には)「なぜ」は最右方に出現させるのが一般的であるという予想を立てることができる。このことは、ペアリスト解釈を用いた先行研究では、「なぜ」を含む多重疑問詞疑問文の本

質を捉えるのには不十分であることを意味する。

本稿では、杉浦 (2013)の論考を援用し、代案を提出する。

- (30) 日本語の理由表現及び理由疑問表現には発話の根拠、実際の理由、名目上の理由という三つのレベルがあり、それぞれの語彙項目によりどのレベルの意味を表せるかが決まっている。また、実際の理由を問う理由疑問表現には「なぜ」類と「どういう理由で」があるが、「なぜ」類がより高い統語的位置を占めるといふ統語的制約に加え、既定の事態のみを修飾するといふ意味的制約が存在する。 (杉浦 (2013: 23))

「なぜ」類には、既定の事態のみを修飾するといふ意味的制約が存在するといふ個所を勘案し、「なぜ」を含む多重疑問詞疑問文の成立プロセスを以下のように提案する。

- (31) (i)前提：誰かが誰かを怒らせた。

(ii)変項 (解の) 探索：誰が誰を怒らせたの？

(iii)それは「なぜ」？ (注)「それ」は(i)と(ii)が混在している (意識は(i)>(ii)) 状態を指している。

(iv) (←(i)+(ii)+(iii)) 「誰が誰をなぜ怒らせたの？」

(「なぜ」以降の「(誰かが誰かを) 怒らせた」は既定事項)

ここで、「なぜ」の後方 (右方) に変項【未定】表現が現れた場合、【既定】環境で使われる (べき) 「なぜ」との齟齬 (既定と未定の衝突) が発生してしまうことになる。したがって、『既定と未定の衝突回避』が最左方表出 (より正確には、「なぜ」が他の疑問詞の左方に表出すること) の阻止要因と考えられる。—[1]に対する答え。

他方、「どんな理由で」・「どういう理由で」は、(32a)に示すように、仮定を問う疑問文でも使用することができることから、既定の事態のみを修飾するといふ意味的制約は課されない。

- (32) a. 学校をさぼりたいと思った場合、(君だったら) どんな理由で・どういう理由で学校をさぼる？ (杉浦(2013: 35)の例文を改変)

b. \*学校をさぼりたいと思った場合、(君だったら) なぜ、学校をさぼる？

c. 昨日は、{どんな理由で / どういう理由で / なぜ} 学校をさぼったの？

上記の言語事実は、「どんな理由で」・「どういう理由で」は(「なぜ」類と異なり)、未(既)定(仮定の拡大解釈)及び既定の事態を修飾することができるということの意味しており、多重疑問詞疑問文において、最左方 (より正確には、他の疑問詞の左方) に出現させても、「なぜ」に見られるような【既定と未定の衝突】は生じない。したがって、【「どんな理由で」・「どういう理由で」は既定の事態ばかりでなく未定の事態をも修飾できる疑問詞である】ことが[2]に対する答え (容認要因) になる。

[3]の問いに対する答えとしては、2つの可能性を想定することができる。ひとつは、意味的近似を橋渡しとして、「なぜ」を「どのような理由で」のように捉えた場合 (認知言語学的記述としては、「既定修飾のみの意識」の希薄化→阻止要因の消滅) にのみ容認可能になるとする想定であり、もう一つは、『既定と未定の衝突回避』を忘れさせるほどに、何よりもまずは、「なぜ」の答えを知りたいという強い欲求が生じているとする想定である (「A が (誰かに) 怒られた」という情報を得た B が、「怒られた理由」を第一に知りたいという状態で、A に会った場合、その心的状態が「なぜ、(誰に) 怒られたの？」という形で言語化されることは十分に想定可能である)。この考え方が正しいとすると、「誰かが誰かに怒られた」という情報を有している場合は、「誰が」・「誰に」・「なぜ」(の答え) に対する相対的欲求度に応じて、例えば、欲求度が、「なぜ」>「誰が」>「誰に」であれば、「なぜ、誰が 誰に 怒られたの？」に、「誰が」>「なぜ」>「誰に」であれば、「誰が なぜ 誰に 怒られたの？」に言語化されると予想

される。

## 6. おわりに

本稿の目的は、「なぜ」を含む多重疑問詞疑問に関する以下の3つの問いに認知言語学的観点から解答を与えることであった。[1]「なぜ」の最左方表出の阻止要因とは何か？[2]「どんな理由で」・「どのような理由で」の最左方表出の容認要因とは何か？[3]「なぜ」の最左方表出容認の促進要因とは何か？先行研究では、ペアリスト解釈ができるかどうかの観点から[1][2]の問いに答えているが、言語感覚調査の結果を元に、その不備が指摘され、「なぜ」に『既定の事態のみを修飾するという意味的制約』が課されていることが、最左方表出（厳密には、他の疑問詞に先んじた表出）を阻止し、他方、「どんな理由で」・「どのような理由で」には、そのような意味的制約が課されていないことが、最左方表出（厳密には、他の疑問詞に先んじた表出）を可能にしていることを代案として提出した。[3]の問いに関しては、2つの可能性（①意味的近似を橋渡しとして、「なぜ」を「どんな理由で」・「どのような理由で」のように捉えるような意識の発動、②変項〔疑問詞〕の解の探求における相対的欲求度の順序の言語的反映）を提案した。

## 主要参考文献

- 杜 曉磊・吉田 光演 (2017) 「WHY を含む中日多重 WH 疑問文の統語論・意味論について」, 『人間科学研究』 12, 63-75, 広島大学大学院総合科学研究科.
- 池田則之 (2014) 「不定語の解釈と叙述関係」, 『九州大学言語学論集』 34, 71-95.
- Kuno, Susumu and Takami, Kenichi (1993) *Grammar and Discourse Principles*. The University of Chicago Press, Chicago.
- 村田 明 (2006) 「多重疑問詞疑問文の特徴—疑問詞の振る舞いが異なるいくつかの言語における多重疑問詞疑問文の観察—」, 『信州大学留学生センター紀要』 7, 1-11.
- 村田 明 (2011) 「優位性効果と指示関数」, 『信州大学人文社会科学研究』 5, 165-174.
- Sable, Joachim (2001) “*Wh*-Questions in Japanese: Scrambling, Reconstruction, and *Wh*-Movement”, *Linguistic Analysis* 31 (1), 1-41.
- Saito, Mamoru (1994) “Additional-*wh* Effects and the Adjunction Site Theory”, *Journal of East Asian Linguistics* 3 (3), 195-240.
- 杉浦 滋子 (2013) 「日本語の理由表現・理由疑問表現」, 『言語と文明』 11, 23-38, 麗澤大学大学院言語教育研究科.
- Takita, Kensuke, Fuji, Chisato, and Barry C-Y, Yang (2007) “*Wh*-Questions in Chinese and Japanese I: Anti-Crossing and Anti-Superiority”, In *Nanzan Linguistics: Special Issue 1*, Vol. 2, 99-112.
- Watanabe, Akira (1992a) “*Wh*-in-situ, Subjacency, and Chain Formation”, *MIT Occasional Papers in Linguistics* 2, MITWPL, Department of Linguistics and Philosophy, MIT, Cambridge, Mass.
- Watanabe, Akira (1992b) “Subjacency and S-structure movement of *WH*-in-situ”, *Journal of East Asian Linguistics*, 1 (3), 255-291.
- 吉田光演 (2000) 「ドイツ語の多重 WH 疑問文の統語的・意味論的考察」, 『仲井間憲児還暦記念論集』 209-250, 仲井間憲児還暦記念論集刊行会.
- 吉田智行 (2014) 「反優位性について」, 『教育研究』 56, 101-108, 国際基督教大学.